

青山 哀囚(あおやま・あいしゅう)

1、プロフィール

歌人としては、1909(明治 42)年から時代の風潮を察知して口語歌に筆を染めるなど新しい傾向を歩いたが、晩年にはオーソックスな短歌を作り歌論をものしている。

<生没>

1894(明治 27)年1月 20 日 ~ 1929(昭和4)年 11 月2日

<代表作>

『青山哀囚歌集』

<青森との関わり>

七戸村(現七戸町)生まれ。県歌壇最初の雑誌「東北」に参加。和田山蘭に認められ、年少奇才の歌人と謳われた。

2、作家解説

本名青山勝信。上北郡七戸村(現七戸町)の浄土宗青岩寺に生まれ、幼にして英才を謳われ 1909(明治 42)年 15 歳から短歌に目ざめ、時の流れを敏感に察知しながら文語短歌から口語短歌へ、更に文語短歌に回帰するという遍歴をする。その間、県歌壇最初の雑誌「東北」に参加し和田山蘭に認められ、自ら郷土の先輩の大塚甲山とその弟理吉大塚甲川並びに森田甲浪らの交友を求めて歌人の道を歩み続けたのであった。後に、太田一二、金井羊村らと短歌会草日社をつくり、孔版で「草日」を創刊して木暮一作の名で歌作したほか「郷土歌壇小言」を上北新聞に連載して後進を導くところがあった。

1917(大正6)年に七戸小学校の代用教員となり、第4学年を受け持ち独特の教育で全生徒に親しまれた。「運動会の歌」は彼の作詞になり、以後 20 年間校歌として全卒業生にまで愛唱された。今日 11 月2日に毎年行われている哀囚忌は彼の教員時代に教え子だった人達によって始められ、遺歌集『青山哀囚歌集』もまた教え子により刊行された。

3、資料紹介

○『青山哀囚歌集』

図書

1970(昭和 45)年 11 月2日

183mm × 128mm

青山勝信は七戸小学校の代用教員となり第4学年を受け持ち、独特の教育で全生徒に親しまれた。『青山哀囚歌集』はその教え子による刊行である。歌集の内容は「秋草の実」276 首「桂風集」184 首「あてなく」108 首、合計 568 首で、内 108 首が口語歌。